

**平成 27 年度
新たな公共プロジェクト実施報告書（案）**

平成 28 年3月
新たな公共プロジェクト事務局

目次

I. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって	1
1. 新たな公共プロジェクトとは	1
(1) プロジェクト実施の経緯	1
(2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出	1
(3) 本プロジェクトの特徴	2
2. 本年度の重点テーマの選定	6
3. 昨年度の課題への今年度の対応	7
II. プロジェクトの実施結果	9
1. 実施プログラム	9
(1) プログラムの概要	9
(2) 年間実施スケジュール	12
2. 参加者数・参加者属性	13
(1) 参加者数	13
(2) 参加者属性	14
3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等	15
(1) プロジェクト支援	15
(2) プロジェクト登録	15
(3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト	16
4. 担い手と担い手を支える人が交流できる基盤の構築	16
III. プロジェクトの成果	18
1. プロジェクトの評価軸の設定	18
2. プロジェクトの評価	18
IV. 今後のプロジェクト実施に向けて	31

I. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって

1. 新たな公共プロジェクトとは

(1) プロジェクト実施の経緯

区では平成24年4月に新たな公共の担い手専門家会議（以下「専門家会議」という。）から提出された提言「文京区と新たな公共の担い手との協働の推進～文京区から始まるソーシャルイノベーションに向けて～」の実現に向け、区の取組方針を定めました。この方針に基づき、25年4月から、対話等を通じて地域の多様な主体が関わり合いながら、地域課題の解決を図る担い手を創出していく「新たな公共プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）の取組を実施し、より豊かな地域社会の実現を図っていくこととしました。

(2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出

地域課題が複雑かつ多様化する中、行政だけの対応ではニーズを十分満たせないというケースもあります。また、区としては踏み込みにくい課題もあります。

区では対応できないケースについては、地域活動団体やNPOが対応している状況もありますが、積極的に地域と関わりを持たない方もおり、既存の枠組み以外の取組も求められています。

本プロジェクトでは、既存の枠組みを尊重しながらも、「新しい発想」や「新しい手法」で地域課題の解決に取り組む、新たな公共の担い手（以下「担い手」という。）の創出を中心に取組を実施することとしました。

【担い手創出に当たり重視した視点】

1) 地域の課題解決に貢献があること

担い手が実施するプロジェクトは、その目的・ミッションの中で、区民の地域課題の解決に寄与することが明記されていることを必要としました。

2) 区民による自発的・主体的な取組であること

担い手が実施するプロジェクトは、区民が中心となる自発的・主体的な取組であることを必要としました。

3) 継続的に運営でき、成果を多くの区民に還元できること

担い手が実施するプロジェクトは、継続的に運営することができ、活動の成果をできるだけ多くの区民に還元することを必要としました。

4) 「私益」や「共益」のためではなく、「公益」のための活動を行うこと

担い手が実施するプロジェクトは、「私益」（自分のため、自分のやりたいことの実施）や、「共益」（自分の仲間のための実施）ではなく、「公益」（多くの区民のための実施）のための活動であることを必要としました。

(3) 本プロジェクトの特徴

1) 幅広い区民が参加できる仕組みの運営

本プロジェクトにおいては、引き続き地域で活動する担い手の裾野を広げるため、地域活動に関心のある方が、各ステージに応じて参加できるプログラムを提供しました。各プログラムには、関連性を持たせており、本プロジェクト中でステップアップできるようにしています。

また、これから地域活動を始める方や、既に地域活動している方と区民とが交流できる多様なプログラムを提供することで、地域の仲間が欲しい、地域で何かしたいと思っている方の出会いの場となるなど、区民が地域活動に参加する方法としては様々な関わり方があることを提案しました。また、「担い手を支える方たちのコミュニティ」として交流会活動や、3年間に関わった方たちをつなぐことにも腐心しました。

実際に、過去の社会起業アクション・ラーニング講座の受講生が本年度の支援プロジェクトとなる、または、独自に文京区の中で活動を始めるといった例も散見されました。

2) 活動の継続力向上に焦点を当てたプログラムの提供

従来の地域活動支援は、団体が提案したプロジェクトの実行に対して助成金という形で支援を行うものが多く見られます。本プロジェクトでは、提案されたプロジェクトの実施に着目するだけでなく、提案されたプロジェクトが支援終了後も、引き続き区内で、自立的、継続的にサービスを提供することを目指しています。そのため、プロジェクト継続するための事業基盤づくりや、地域のステークホルダーとの関係性づくりに対して積極的な支援を行いました。

また、本区に拠点を置き様々な分野で活動している NPO 法人は数多くあります。本プロジェクトでは、区民が身近な NPO の活動を知り、交流できる機会をつくり、NPO 同士が協力できる関係性が生まれる仕組みとして、昨年度に引き続き「文京区 NPO 活動 PR フェア」を区内 NPO 法人と協働して実施しました。この取組により、活動を幅広い層へ紹介することができ、新たな協力者の獲得等、団体活動の継続に資する支援となりました。

3) SNS 等のメディアを活用した広報戦略

人と人のつながりを広げる取組として、特設サイトや、SNS (Facebook、Twitter)、メールマガジンの運営等、多様な広報媒体の特性を活かした広報を戦略的に行うことにより、地域活動に関心のある方へ情報を確実に届ける発信に努めました。特に、SNS による情報発信は、「人」に着目して、地域で活動している団体や人、各プログラムの参加者の様子をリアルタイムで伝えることに努めました。これにより、地域活動に少しでも関心のある方たちに、「プログラムに参加してみよう」「自分も何かしてみよう」と思ってもらうことにより、各プログラムの集客力を高めることができました。

4) 全庁的な取組

本年度も引き続き、協働推進委員会（以下「委員会」という。）及び協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部（以下「本部」という。）の運営を行い、全庁を挙げた取組を行いました。

また、支援プロジェクト団体に対する担当課との連携支援や、各プログラムへの職員の参加、協働推進に関する職員研修の実施により、組織全体の意識向上、風土改革に取り組みました。

協働推進委員会名簿

番号	職	氏名	所属
1	委員長	八木 茂	区民部長
2	副委員長	阿部 英幸	区民部協働推進担当課長
3	委員	竹越 淳	企画政策部企画課長
4	〃	石嶋 大介	総務部総務課長
5	〃	古矢 昭夫	区民部区民課長
6	〃	山崎 克己	アカデミー推進部アカデミー推進課長
7	〃	木幡 光伸	福祉部福祉政策課長
8	〃	椎名 裕治	男女協働子育て支援部子育て支援課長
9	〃	吉田 雄大	保健衛生部生活衛生課長
10	〃	鵜沼 秀之	都市計画部都市計画課長
11	〃	小野 光幸	土木部管理課長
12	〃	柳下 幸一	資源環境部環境政策課長
13	〃	廣瀬 誠一	施設管理部施設管理課長（事務）
14	〃	加藤 裕一	教育推進部庶務課長

協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部名簿

（各種別 50 音順）

番号	職	氏名	種別	備考
1	本部長	八木 茂	区職員	区民部長
2	本部員	安藤 哲也	識見者	NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事 NPO 法人タイガーマスク基金代表理事
3	〃	井上 英之	〃	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別 招聘准教授 INNO-Lab International 共同代表

4	本部員	各務 茂夫	識見者	東京大学教授 東京大学産学連携本部イノベーション推進部長
5	〃	菊地 端夫	〃	明治大学経営学部公共経営学科准教授 カリフォルニア大学バークレー校政府研究所 客員研究員
6	〃	丁 寧	〃	日中の未来を創る会共同代表 SVP 東京パートナー
7	〃	阿部 英幸	区職員	区民部協働推進担当課長
8	〃	古矢 昭夫	〃	区民部区民課長

5) 専門家など多彩な協力者

本プロジェクトでは、専門家会議委員に引き続き本部員として全体の進行管理に協力をいただくとともに、プロジェクトの委託事業者も「パートナー事業者」と位置付け、仕様書に基づく単純な委託ではなく、事業の企画と実施を行う事務局を区と協働して運営する体制をとりました。また、各地で先進的な取組をされている方や、様々な分野の専門家に、各プログラム等のゲストやメンターとなって本プロジェクトに協力いただくことにより、多様な視点を持った事業展開を可能としました。

【外部協力者リスト 37人】

(敬称略、順不同)

実施プログラム	協力者（主な肩書き）
社会起業入門講座ゲスト講師	鈴木 菜央（NPO 法人グリーンズ代表、greenz.jp 編集長）
	徳永 洋子（ファンドレイジング・ラボ代表）
文京ミ・ラ・イ対話ゲスト	古市 太郎（文京学院大学人間学部コミュニケーション社会学科 博士（学術）助教、社団法人「てらまっち」理事）
	南陀楼綾繁（ナンドロウアヤシゲ）（ライター・編集者、不忍ブックストリート代表）
	林 大介（東洋大学社会学部社会福祉学科 助教）
	岩渕 美華（NPO 法人サービスグラント リクルーティングチーム）
	平田 京子（日本女子大学家政学部住居学科 教授）
	中橋 徹也（NPO 法人 東京いのちのポータルサイト 監事）
	宇野 常寛（評論家、『PLANETS』編集長）
	南里 隆宏（跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 准教授）
鎌田 華乃子（コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン代表）	
支援プロジェクト 第1クールメンター	田邊 健史（NPO サポートセンター 事務局次長）
	小笠原 祐司（NPO 法人 bond place 代表）

	北池 智一郎 (株式会社タウンキッチン 代表取締役)
	藤村 隆 (特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 (SVP 東京) 事業統括 COO)
社会起業アクション・ラーニング講座 メンターミーティングメンター	市川 潤 (株式会社 地域協働推進機構 ディレクター、公益財団法人 東京都中小企業振興公社 ソーシャルインキュベーションオフィス・SUMIDA インキュベーションマネージャー)
	大塚 智子 (株式会社 Mistletoe)
	大西 純 (特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 (SVP 東京) パートナー)
	尾久 陽子 (おぎゅう行政書士事務所、おぎゅう居宅介護支援事業所所長、一般社団法人キャリア 35 代表理事)
	北池 智一郎 (株式会社タウンキッチン 代表取締役)
	木下 紫乃 (昭和女子大学キャリアカレッジ)
	昆布山 良則 (公益社団法人長寿社会文化協会 (WAC)、全国コミュニケーションカフェ・ネットワーク 事務局)
	田村 真菜 (株式会社 meguri 共同代表取締役)
	中島 久樹 (マナビクリエイト 代表)
	林田 稔 (株式会社ファストトラックイニシアティブ インダストリ・エキスパート)
	矢富 健太郎 (SVP 東京 パートナー、NPO 法人二枚目の名刺 監事、NPO 法人ブラストビート 監事)
	由利 吉隆 (NPO 法人 ETIC、震災復興リーダー支援プロジェクト コーディネーター)
	石野 宏明 (NPO 法人 ETIC、TOKYO STARTUP GATEWAY リーダー)
	齊藤 充 (対話学舎えんたらいふ主宰 (合同会社えんたらいふ 代表))
	谷合 竜馬 (NPO 法人 ETIC、SUSANOO コーディネーター)
	淵上 周平 (株式会社エンパブリック取締役、株式会社 PTP 取締役)
	米田 直子 (NPO 法人 ETIC、コーディネーター)
社会起業フェスタ 2016 ゲスト	左京 泰明 (NPO 法人シブヤ大学学長)
成果検証会議委員	佐藤 真久 (東京都市大学環境学部 教授)
	井上 英之 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授 INNO-Lab International 共同代表)
	手塚 明美 (NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会理事・事務局長)
	加藤 良彦 (NPO 法人風のやすみば 代表)

2. 本年度の重点テーマの選定

昨年度までは、本プロジェクトの実施に当たり、本年度重点的に区民と協働して地域課題の解決を図りたい重点テーマとして、行政組織から提案された「行政だけでは解決できない課題」をテーマとしていました。しかし、本年度からは、より幅広い話題を扱い、これまで働きかけができていない層にも関心を持ってもらうこと、プロジェクトに参画してもらうことを目指し、行政からの提案ではなく、区内大学等で連携した全国的な社会課題や動きをテーマとしました。

全体テーマとして、文京区が東京の中心部にあるという特性を踏まえ、「都市暮らしの豊かさ」を挙げ、文京区内はもちろん、他区や他都市にとっても課題となっているテーマで、文京区から全国に、都市暮らしの課題と解決の視点について情報発信し、社会課題解決へのチャレンジの場としての文京区をアピールする機会にすることも目指しました。

重点テーマ

【文京区での暮らしの豊かさを広げていくには】

都心にある文京区は、交通の利便性もよく、教育機関、医療機関なども充実しており、私たちは、これらの環境や身近に実感できる資産を都市の豊かさだと考えています。しかし、それだけではなく、地域には、多様な知識や経験を持つ人たちが住み、まちの伝統や文化などがあり、区民自らが他人とつながったり、人が集う場所に参加することで感じられ、創られていく資産もたくさんあります。現在、地域には、コミュニティの希薄化、子育て環境の充実、防災・防犯対策など行政のサービスだけでは解決が難しい課題があり、これらの資産を活用することで、解決策を生み出していくことができ、これまでの「与えられる豊かさ」だけではない、「自ら発見し、創り出す豊かさ」を得ることができます。区民一人ひとりが文京区の資産の価値を改めて実感し、活用していくことで、暮らしの豊かさを広げていきます。

なお、本プロジェクトでは、この重点テーマを、区民の対話の場でのテーマとして採用するとともに、テーマに関連したプロジェクト創出を支援することなどによって、重点テーマにおける地域課題解決を推進しました。

3. 昨年度の課題への今年度の対応

本年度、各プログラムを実施するに当たり、昨年度の報告書で挙げた課題については次のような工夫をしながら取り組みました。

【課題1】新たな視点による重点テーマの設定

本プロジェクトの重点テーマは、毎年度、行政の現場から出された「行政だけでは対応が難しい地域課題」をベースに設定してきました。しかしながら、挙げられたテーマと、地域の担い手が取り組みたいテーマが必ずしも一致するとはいえない状況にもあり、また、2か年にわたり同じようなテーマとなったこともあり、テーマに広がりがなくなり、参加者の減少・固定化も懸念されます。また、今後は、教育機関等と連携し、時代背景を踏まえた文京区での対話に相応しい課題をベースにしたテーマの設定を検討していきます。

■今年度の対応

「2. 本年度の重点テーマの選定」で記載したとおり、本年度の重点テーマは区内大学等で連携した全国的な社会課題や動きをテーマとしました。全体テーマとして、「文京区での暮らしの豊かさを広げていくには」とし、文京区の中での都市暮らしの多分野での課題と解決の視点について、学び、話し合いながら具体的な解決へとつなげることにしました。

また、文京ミ・ラ・イ対話は、昨年までは文京シビックセンターで開催していましたが、本年度は、大学や区の施設との連携により、区内の各地域で開催した結果、これまで遠くて参加できなかった方などが参加するきっかけとなり、新たな参加者を得ることができました。

【課題2】広報媒体活用方策の検討

様々な広報面での工夫により、実施プログラムの延べ参加者が1,000人超となるなど、参加者増加に一定の成果を上げてきました。しかしながら、メルマガ登録数の伸びは少なく、Facebookのリーチ数（記事を読んだ人の数）も減少するなど、本プロジェクトを更に活性化していくには必ずしも十分とは言えない状況にあります。今後は、受け手の満足度を高めるコンテンツの提供やニューズレターの発行回数の増加及び配布協力者の拡充などにより、メディアの特性を生かした広報媒体の活用方策の検討を進め、参加者数の向上を図っていきます。

■今年度の対応

多様な広報媒体により、情報の拡散に努めました。

特設サイト情報発信回数	件	(前年度	件)	(調査中)
Facebook 情報発信回数	件	(前年度	件)	(調査中)
メールニュース発信回数	16件	(前年度	9件)	
ニューズレター発行回数	7回	(前年度	5回)	

【課題3】「展開力向上支援」候補団体に対する支援

本年度は、展開力向上支援の候補にもなる、既に他地域で事業を成功させている団体のプロジェクトの登録もありましたが、ソーシャルビジネスのフランチャイズ展開については、実際には整えるべきことも多く、また、基盤のない土地での事業展開には、地域の中で共に動けるメンバーの組織化に想定よりも多くの時間を要することがわかりました。今後は、これらの課題について支援を受けた団体とも共有し、団体の支援に必要と考えられる方策の検討を進め次期支援に生かしていきます。

■今年度の対応

今年度の支援プロジェクトとして、他地域で事業を展開させている NPO 法人 ArrowArrow のプロジェクトを展開力向上として支援しました。さらに、本スキームの理解やプロジェクトプランのブラッシュアップを図るため、説明会の開催や、プロジェクト・ブラッシュアップ講座を3回にわたり実施しました。また、支援団体とのミーティングを密に行いながら、地域で活動する意味などをディスカッションしながら実行計画書を作成しました。さらに、経済課など区庁内の関係課とも連携しながら、区に根付いた活動ができるようなサポートを行いました。

※しかしながら、文京区に基盤のない団体の展開は想定以上に難しく、展開力向上支援までのインパクトを出すことはできませんでした。また、地域とつながりながら事業を展開することについての理解を得ることができず、NPO 法人 ArrowArrow の支援は第1クールのみとなりました。

【課題4】本プロジェクトの成果検証の実施

区としては、本プロジェクトにおける担い手創出のスキームを3年程度実施し、その成果等の検証を踏まえ、その後の事業の方向性を検討していくこととしています。毎年度の実績と成果については報告書としてまとめているところですが、3年目となる次年度は、専門家及び実務者による会議体を設置し、これまでの取組が地域にどのような効果を生み出したのかなど、第三者の立場から成果を客観的に検証していきます。

■今年度の対応

新たな公共プロジェクトの3か年の成果を客観的に検証、意味づけするために、外部の専門家を中心とした成果検証会議を設置しました。1月より計4回の予定で、会議を開催することとしています。本年度においては、会議を2回開催し、評価軸の検討、これまでに新たな公共プロジェクトに関わってきた方へのアンケート調査、ヒアリング調査及び職員アンケート調査を実施しました。来年度には、成果検証の結果を報告する予定です。

II. プロジェクトの実施結果

1. 実施プログラム

(1) プログラムの概要

実施プログラム	位置づけ
社会起業講座	
社会起業入門講座 『ほしい未来をつくる』仕事って何？(7/16) 「共感を呼ぶ活動をつくるには？」(8/27)	2015年度の導入講座として、地域で何か活動をしてみたい方や、地域課題の解決にビジネスの手法を活かして取り組みたい方たちを対象に、「地域に役立つ仕事を生み出す方法」や「活動の協力者を増やすための共感づくり」を学ぶ講座を開催しました。講座の実施を通じて、後期に実施したアクション・ラーニング講座の受講生候補を発掘するとともに、他プログラムへの参加を促しました。
社会起業アクション・ラーニング講座（10/22～2/25 全7回講座）	地域課題の解決プランを継続・発展する事業としていくために、ビジネスとするための手法やプロセスを学ぶとともに、受講生が地域の中で試行やアクションを行いながら実践力を身に着けるための連続講座を実施しました。
社会起業対話（11/25）	社会起業アクション・ラーニング講座受講生の問題提起による地域課題について対話しました。対話を通じて、受講生の思いを発表し、区民からの意見を知る場、共通の地域課題に関心のある方同士の出会いの場ともなりました。
文京社会起業フェスタ2016（2/11）	本年度の社会起業アクション・ラーニング講座受講生、プロジェクト登録団体、プロジェクト支援団体が一堂に会し、プロジェクトの実施者と区民が出会い、つながれる機会とするためのイベントを実施しました。
プロジェクト支援制度	
プロジェクト支援制度説明会（4/8、4/22）	プロジェクト登録・支援を希望する方向けに、制度及び支援の内容の説明会を開催いたしました。
プロジェクト支援候補プロジェクトの登録	地域課題を解決するためのプロジェクトが固まっている団体を対象に、特設サイトにおける広報活動や、文京区 NPO 活動 PR フェア・社会起業フェスタへの出展参加を通じた事業化支援を実施しました。また、今年度より、さらに事業展開を後押しするため、定期的な相談会も実施しました。このプログラムは、プロジェクト支援に至らないまでも、次ステップへと繋げることを目指します。 また、プロジェクト登録の申込前に、個別のプランをレベルアップするためのプロジェクト・ブラッシュアップ講座（5/17、21、28）も開催しました。

プロジェクト支援	<p>登録されたプロジェクトの中から、「文京区の地域課題解決への貢献が大きく、事業として自立的、継続的に展開していく可能性が高い」と判断できるプロジェクトを本部で選考し、その事業構築の総合的な支援を実施しました。支援区分は事業段階に応じ、以下の2区分で実施しました。</p> <p>【8月～11月期】</p> <p>1)「プロジェクト継続力向上」支援 (3団体)</p> <p>2)「プロジェクト展開力向上」支援 (1団体)</p> <p>【12月～3月期】</p> <p>1)「プロジェクト継続力向上」支援 (3団体)</p>
文京区 NPO 活動 PR フェア	
NPO 交流会 (5/15)	区内に主な事務所を設置する NPO 団体を対象に、今年度の文京区 NPO 活動 PR フェアの案内を兼ね、NPO 同士の交流の場を提供しました。新規の NPO 団体の参加も見られ、新たな担い手の開拓、ネットワークづくりにも寄与しました。
実行委員会 (6/25、7/30)	参加団体の有志による実行委員会形式により、企画の検討、イベントタイトルの検討などを行いました。この方式を採用することで、より参加団体の意見を反映させたイベントとすることができました。
最終準備会 (9/10)	出展参加者が一堂に会して、最終的な確認、顔合わせをしました。単に出展するだけでなく、当日は、各コーナーで「班長」「会場係」を担当するなどの役割を担ってもらうことで、参加者全員でイベントを作り上げるという意識を醸成することができました。
文京区 NPO 活動 PR フェア「文京と社会の今がわかる NPO 展」(9/27)	区内の NPO 団体が取組む社会課題や地域課題、活動の知恵・ノウハウについて区民が知り、学べる機会をつくることで、NPO 団体が取組む活動の仲間づくりや、NPO 団体と区民との交流を促すことを目的に実施しました。また、NPO 団体が掲げるテーマや活動内容に触れる体験を通じて、区民が自ら取組みたい社会課題や地域課題を見つける機会をつくり、担い手候補の発掘や、社会起業講座の参加を促す機会をつくりました。
振り返り会 (10/2)	今年度のフェアを振り返り、次年度に向けた改善点等を話し合いました。
対話の場	
文京ミ・ラ・イ対話 (7/5、8/5、9/13、9/24、10/4)	地域課題に取り組む専門家や区の担当者からの話、先進的に取り組んでいる事例から文京区の地域課題を知り、課題解決の主体者としてその解決策を共に考え、交流を深める対話の場を企画しました。今年度は、都市暮らしの豊かさを重点テーマに、一般的な社会課題や社会の関心について対話をする場としました。また、大学等を会場に、区内の各地域で開催し、今まで参加できなかった層への参加を促しました。(7

	月は文京のミ・ラ・イへつなぐシンポジウム&対話として開催し、その他4回も含め10月までに、計5回実施しました。）
広報	
WEB 及び SNS の広報	特設サイトや、SNS (Facebook、Twitter)、メールマガジンによる多様な広報媒体を活用した広報活動を実施しました。
ニューズレターの発行、ポスターの作成 (4月、6月、7月、8月、9月、1月、3月)	区内外に本プロジェクトの実施状況や、講座・イベント等の開催情報を広く発信し、各プログラムに参加を促すための広報紙の発行とポスターの制作を行いました。
職員研修	
職員研修 (協働推進関係)	職員の協働推進に対する意識改革を図るため、職務経験別の研修などを実施しました。
成果検証会議	
成果検証会議 (第1回 1/20、第2回 3/14)	新たな公共プロジェクトの3か年における成果の検証のため、成果検証会議を設置し、評価軸の検討、事例調査分析を行いました。また、成果検証に当っては、参加者へのアンケート調査 (これまでの参加者・関係者・メールニュース登録者)、区職員へのアンケート調査及びヒアリング調査 (過去参加者・関係者) を実施しました。 ※全4回を予定。次年度以降に継続。

(2) 年間実施スケジュール

	協働推進委員会	担い手創出プロジェクト支援本部	プロジェクト支援	社会起業講座等	文京ミ・ライ対話	文京区NPO活動PRフェア	プラットフォーム(広報等)	成果検証会議	職員研修
4月			・プロジェクト支援制度説明会・相談会(4/18、4/22)			・企画案内、事前アンケート	・特設サイト ・facebook ・メールニュース ・Twitter	・ニュースレター4月号発行「仲間とチャレンジ」 ・ポスター発行	
5月	・第1回委員会(5/22)		・プロジェクト・ブラッシュアップ講座3回(5/17、5/21、5/28)			・交流会(5/15)			
6月			プロジェクト登録			・第1回実行委員会(6/25)		・ニュースレター6月号発行「街に出よう！」 ・ポスター発行	・新任研修「区の協働」 ・NPO等地域団体派遣研修(6月～11月)
7月	・第2回委員会(7/3)	・第1回本部(7/24) ・プロジェクト支援選考	支援プロジェクト選考	社会起業入門講座「『ほしい未来をつくる』仕事って何？」(7/16)	「考え込むより、街に出よう！」文京学院大学(7/5)	・出展意向等確認アンケート ・第2回実行委員会(7/30)		・ニュースレター7月号発行「街で出会おう！」 ・ポスター発行	
8月			・第1クール(8～11月支援)メンターミーティング、定例ミーティングなど	社会起業入門講座「共感を呼ぶ活動をつくるには？」(8/27)	「文京区の会社員も街に出よう！」東洋大学(8/5)		適宜情報	・ニュースレター8月号発行「仲間を増やそう！」 ・ポスター発行	
9月					「頼りになる情報源、持っていますか？」日本女子大学(9/13) 「私たちが未来を拓くためのメディアとは？」Jb-lab(9/24)	・最終準備会(9/10) ・NPO活動PRフェア(9/27)		・ニュースレター9月号発行「文京区NPO活動PRフェア特集号」 ・ポスター発行	・新たな公共担い手との協働推進研修
10月			事業構築支援メンターMTG、定例MTG、ステークホルダーMTGなど	・社会起業アクション・ラーニング講座第1回(10/22)	「仲間の見つけ方、広げ方を考えよう」跡見学園女子大学(10/4)	・振り返り会(10/2)			・協働研修「応用」(10月～11月)
11月	・第3回委員会(11/12)	・第2回本部(11/25) 「継続審査」		・第2回講座(11/5) ・第3回講座(11/12) ・個別相談会①(11/19、11/20) ・社会起業対話(11/12)					・新任研修「区の協働」 ・協働研修「基礎」
12月			・第2クール(12～3月支援)	・第4回講座(12/6)メンターミーティング					
1月				・個別相談会②(1/14、1/15) ・第5回講座(1/21)				・ニュースレター1月号発行「仲間を見つけてよう！」	・第1回会議(1/20)
2月			・文京社会起業フェスタ(2/11)	・文京社会起業フェスタ(第6回講座)(2/11) ・第7回講座(2/25)					
3月	・第4回委員会(3/17)	・第3回本部(3/24) 「終了審査」						・ニュースレター3月号発行「3年目を振り返る」(仮)	・第2回会議(3/14)

2. 参加者数・参加者属性

(1) 参加者数

各プログラムの延べ参加者数は 1,162 人（実数¹ 323 人）でした。文京ミ・ラ・イ対話の一部、文京社会起業アクション・ラーニング講座は、定員を下回りましたが、その他は概ね定員充足率も高く、定員を大きく超えたものもありました。

図表 参加者数

（単位：人、％）

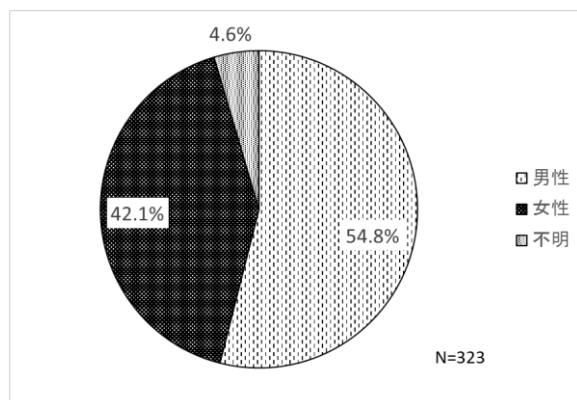
プログラム名	開催日	曜日	場所	定員	申込	事前申込	当日参加	ゲスト等	職員	講師等 (事務局除く)	参加者 合計	定員 充足率	備考
プロジェクト支援制度説明会①	4月18日	土	磯川地域活動センター 会議室	-	25	22	1	-	-	1	24	-	団体数16
プロジェクト支援制度説明会②	4月22日	水	磯川地域活動センター 会議室	-	15	11	1	-	-	2	14	-	団体数8
NPO交流会	5月15日	金	男女平等センター 研修室	-	-	-	15	-	-	2	17	-	団体数15
プロジェクト・ブラッシュアップ講座①	5月17日	日	磯川地域活動センター 会議室	-	31	21	-	-	-	-	21	-	団体数13
プロジェクト・ブラッシュアップ講座②	5月21日	木	エンパブリック事務所	-	31	15	-	-	-	-	15	-	団体数12
プロジェクト・ブラッシュアップ講座③	5月28日	木	エンパブリック事務所	-	31	15	-	-	-	-	15	-	団体数10
NPO活動PRフェア「実行委員会①」	6月25日	木	男女平等センター 研修室	-	-	7	-	-	-	-	7	-	団体数7
文京のミ・ラ・イへつなぐシンポジウム&対話 ①「考え込むより、街に出よう！」	7月5日	日	文京学院大学	50	35	25	4	2	1	2	34	68%	
社会起業入門講座①「「ほしい未来をつくる」 仕事って何？」	7月16日	木	シビックセンター5階 区民会議室	30	48	37	2	1	-	-	40	133%	
NPO活動PRフェア「実行委員会②」	7月30日	木	男女平等センター 研修室	-	-	6	-	-	-	-	6	-	団体数6
文京ミ・ラ・イ対話② 「文京区の会社員も街に出よう！」	8月5日	水	東洋大学	40	55	30	6	10	2	3	51	128%	
社会起業入門講座②「「共感を呼ぶ活動をつくる には？」	8月27日	木	シビックセンター5階 区民会議室	30	50	36	-	1	-	2	39	130%	
NPO活動PRフェア「最終準備会」	9月10日	木	男女平等センター 研修室	-	-	-	26	-	-	-	26	-	団体数19
文京ミ・ラ・イ対話③ 「頼りになる情報源、持ってますか？」	9月13日	日	日本女子大学	40	47	23	-	2	1	3	29	73%	
文京ミ・ラ・イ対話④ 「私たちが未来を拓くためのメディアとは？」	9月24日	木	b-lab(文京区青少年プラ ザ)	40	77	37	1	1	2	12	53	133%	
NPO活動PRフェア	9月27日	日	シビックセンター1階、地 下2階 展示室、区民ひろば	-	-	-	321	-	-	99	420	-	団体数25
NPO活動PRフェア「振り返り会」	10月2日	金	男女平等センター 研修室	-	-	11	-	-	-	-	-	-	団体数9
文京ミ・ラ・イ対話⑤ 「仲間の見つけ方、広げ方を考えよう」	10月4日	日	跡見学園女子大学	40	72	36	-	2	-	4	42	105%	
社会起業アクション・ラーニング講座①	10月22日	木	エンパブリック事務所	20	-	-	18	-	-	-	18	90%	
社会起業アクション・ラーニング講座②	11月5日	木	エンパブリック事務所	20	-	-	17	-	-	-	17	85%	
社会起業アクション・ラーニング講座③	11月12日	木	エンパブリック事務所	20	-	-	16	-	-	-	16	80%	
文京社会起業対話	11月25日	水	シビックセンター5階 区民会議室	20	45	31	1	-	-	2	34	170%	
社会起業アクション・ラーニング講座④	12月6日	日	シビックセンター5階 区民会議室	20	-	-	15	17	-	-	34	170%	
社会起業アクション・ラーニング講座⑤	1月21日	木	エンパブリック事務所	20	-	-	12	-	-	-	12	60%	
文京社会起業フェスタ2016 (社会起業アクション・ラーニング講座⑥)	2月11日	木 (祝)	シビックセンター2階 小ホール	-	-	-	158	1	5	3	167	-	
社会起業アクション・ラーニング講座⑦	2月25日	木	エンパブリック事務所	20	-	-	11	1	-	-	11	55%	
合計				-	-	363	625	38	11	135	1162	-	

¹ 個人を特定した、社会起業入門講座、文京ミ・ラ・イ対話、文京社会起業アクション・ラーニング講座、文京社会起業フェスタ 2016 の参加者で集計

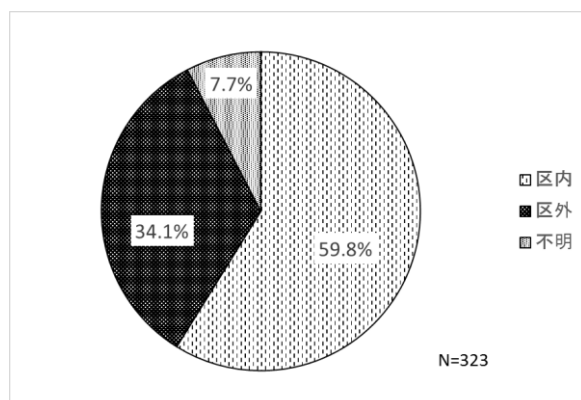
(2) 参加者属性

参加者の属性をみると、男性は54.8%、女性42.1%、また、区内区外では、区内59.8%、区外34.1%となっています。年齢別でみると、最も多いのが「40歳代」で全体の31.5%、次いで「30歳代」の21.9%となっています。属性分析としては、例年同様、20～40歳代が多いことが特徴といえます。

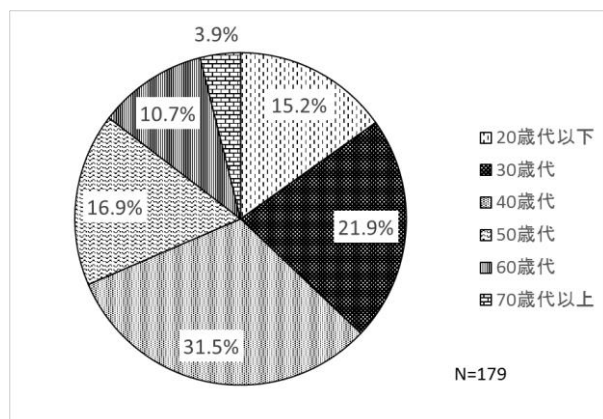
図表 全参加者男女別人数割合



図表 全参加者区内区外別人数割合



図表 全参加者年齢別人数割合²



² 年代を把握した、社会起業入門講座、文京ミ・ラ・イ対話、文京社会起業アクション・ラーニング講座の参加者（実数）で集計

3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等

本プロジェクトにおいては、担い手の状況に応じたプロジェクト支援を実施し、支援プロジェクトとしては2013年、2014年の社会起業アクション・ラーニング講座の修了生から生まれたプロジェクトも含め4件を支援しました。また、登録プロジェクトとしては9件、本年度の社会起業アクション・ラーニング講座からはアイデア段階も含め13件のプロジェクトが生まれました。

(1) プロジェクト支援

◇4件

No.	プロジェクト名	団体名
1	ブランクではなくギャップイヤー！ ※ ～ライフイベントによる長期休暇がキャリア中断にならない文京区をつくる～	NPO 法人 ArrowArrow
2	ぶんきょう・いんぐれす	ぶんきょう・いんぐれす
3	まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつながるプロジェクト	文京かるた隊
4	「ようこそサカミチ in 文京2023」 (減災連携ステークホルダーミーティングのモデル化とサカミチ観光開発事業)	本郷いきぬき工房

※は展開力向上区分、それ以外は継続力向上区分での支援、また、第1クール（8月～11月期）のみ支援

(2) プロジェクト登録

◇9件

No.	プロジェクト名	団体名
1	頭と心と体を鍛える ダビンチ・キッズ プログラム	ダビンチ・キッズ
2	子ども料理科学教室	NPO 法人市民科学研究室
3	Bーぐる沿線地域のプロモーション組織の設立準備	Bーぐる沿線協議会プロジェクトチーム
4	文の京リージョケーション	文の京リージョケーション
5	ブランクではなくギャップイヤー！ ～ライフイベントによる長期休暇がキャリア中断にならない文京区をつくる～	NPO 法人 ArrowArrow
6	ぶんきょう・いんぐれす	ぶんきょう・いんぐれす
7	文京区の子どもから発信して、地域をつなぐきっかけを作るフリーペーパープロジェクト	うふ・ふ

8	まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつな がるプロジェクト	文京かるた隊
9	「ようこそサカミチ in 文京2023」 (減災連携ステークホルダーミーティングのモデル化 とサカミチ観光開発事業)	本郷いきぬき工房

(3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト

◇13件

<p>■地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜もおもてなし東京 ・文の京 アート de わく work ラボラトリー ・ちいさな町をもっと楽しくするメディア rojiroji ・文京ブックカフェ <p>■大人の学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文京区再発見『文の京エキスパート検定』 ・健康古民家かのう（仮称）～心と身体健康づくり～ ・やってみよう！はじめてのアート ・学生時代にやりたいことを見つける会 <p>■子どもの学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESCA マグネットスクール×PBL <p>■ソーシャルチェンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書（障）を捨てよ、旅に出よう ・文京ベビ・ナビ ・地域のつながり方の提案 ・医療費節約 Café

4. 担い手と担い手を支える人が交流できる基盤の構築

昨年度立ち上げた文京ソーシャルイノベーション交流会メンバーを中心に新たな公共プロジェクトに関係した人々がつながり、お互いに助け合える基盤が機能し始めました。

<p>■文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会（登録者数 62人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の社会起業アクション・ラーニング講座修了生を中心とする自主活動グループ「文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会」を引き続きサポートしました。年度初め、年末の交流会など、社会起業アクション・ラーニング講座修了生、プロジェクト登録団体、支援プロジェクト団体等、文京区で地域活動を行う人々のつながりを作りました。 ・文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会参加メンバーによるメーリングリストは引き続き運用し、日常の情報共有が行える仕組みとなっています。

■文京区 NPO 活動 PR フェア参加団体による交流会（登録団体数 33 団体）

・文京区 NPO 活動 PR フェアの参加団体による自立的な活動として、フェア開催後の交流会の実施を支援しています。メーリングリストについても引き続き運用し、日常の情報共有が行える仕組みとなっています。

■ヒアリング調査により、交流会メンバーを中心としてそれぞれのプロジェクトを相互支援する現象が見られました。

（例）

・さきちゃんち（地域の子どものための居場所）

：社会起業アクション・ラーニング講座修了生、ミ・ラ・イ対話参加者などが中心となって運営

・文京映画交流クラブ（映画を通じた街づくり、交流づくり）

：リーダーに加え、対話の場で出会ったメンバーが中心となり文京映画祭を企画・運営

・NPO 法人キュリオシティ（2013 年社会起業アクション・ラーニング講座修了生による団体）

：まじプロ 2015 のプログラムに、2014 年社会起業アクション・ラーニング講座修了生、対話の場や社会起業フェスタ参加者がスタッフとして参画

III. プロジェクトの成果

1. プロジェクトの評価軸の設定

本プロジェクトの一年の成果は、担い手創出に当たり重視した視点を踏まえ、例年どおり、次のような評価軸を設定しました。

【プロジェクトの評価軸】

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか
- ② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか
- ③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業体は生まれたか
- ④ 担い手の事業によって、どれだけの区民がサービスの受け手となったか
- ⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか
- ⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか
- ⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上に、どのように貢献できたか
- ⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか
- ⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか
- ⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか

2. プロジェクトの評価

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか

⇒本年度は、地域課題の解決プロジェクトとして一定レベルにあると判断されたプロジェクトの登録が9件、今後のプロジェクト登録・プロジェクト支援レベルまで発展する可能性のあるプロジェクトとして、社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクトが13件生まれました。また、文京ミ・ラ・イ対話、社会起業入門講座、社会起業フェスタなどの参加者アンケートを見ると、「何か活動したい方」「地域の課題を学びたい方」等が一定程度の回答者が見られることから、地域課題に対する新しいアプローチを生み出し、見出すことが着実にできていると評価できます。

◇本年度生まれたプロジェクトの数（プロジェクト登録、社会起業アクション・ラーニング講座）

⇒プロジェクト数 **22件**

（プロジェクト登録 9件、アクション・ラーニング講座 13件）

◇参加者アンケート結果

○社会起業入門講座（N=55）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **38.2%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **25.5%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **23.6%**

○文京ミ・ラ・イ対話（N=145）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **22.8%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **33.8%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **11.0%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座に興味がある」と回答した方 **52.3%**（N=46）

○文京社会起業フェスタ 2016（N=49）

- ・「何か活動をしたい」と回答した方 **30.6%**

② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか

⇒プロジェクト登録の応募件数や社会起業アクション・ラーニング講座の参加者数、プロジェクト支援制度説明会参加者数等の状況から、自らのアイデアやプロジェクトを持ち、試行的な取組も生まれていることから、将来の地域活動の担い手候補になる可能性のある数多くの層に、自発的・主体的な取組を生み出すことができつつあると評価できます。

◇区民の自発的・主体的な取組を促進するプログラムの参加者数等

○プロジェクト登録応募件数、社会起業アクション・ラーニング講座参加者数、支援制度説明会参加者数

⇒・プロジェクト登録応募件数 **10件**

・社会起業アクション・ラーニング講座参加者数 **18人**

・プロジェクト支援制度説明会参加者数 **38人（24団体）**

○社会起業入門講座への参加者

⇒社会起業入門講座①「「ほしい未来をつくる」仕事って何？」 **参加者数 40人**

社会起業入門講座②「共感を呼ぶ活動をつくるには？」 **参加者数 39人**

なお、社会起業入門講座、文京ミ・ラ・イ対話、社会起業フェスタにおける参加者アンケート結果からも、今後、地域活動の担い手候補になる可能性のある層へ働きかけることができました。

◇参加者アンケート結果（一部再掲）

○社会起業入門講座（N=55）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **38.2%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **25.5%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **23.6%**
- ・「一緒に活動する仲間を見つけたい」と回答した方 **36.4%**

○文京ミ・ラ・イ対話（N=145）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **22.8%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **33.8%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **11.0%**
- ・「一緒に活動する仲間を見つけたい」と回答した方 **38.6%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座に興味がある」と回答した方 **52.3%**（N=46）

○文京社会起業フェスタ 2016（N=49）

- ・「何か活動をしたい」と回答した方 **30.6%**
- ・「既に活動している（区内外）」と回答した方 **46.9%**

③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業体は生まれたか

⇒本年度は、4件のプロジェクトを支援し、支援が終了したプロジェクトも地域に根ざして継続的な活動が行われていること、また、登録プロジェクト、支援プロジェクト以外にも、事業の実施、活動展開しているプロジェクトも見られたことから、継続的なサービスが提供できる担い手の創出ができていると評価できます。

◇支援プロジェクト

⇒・2015年度支援プロジェクト **4件**

- ① blankではなくギャップイヤー！～ライフイベントによる長期休暇がキャリア中断にならない文京区をつくる～（NPO 法人 ArrowArrow）※
- ② ぶんきょう・いんぐれす（ぶんきょう・いんぐれす）
- ③ まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつながるプロジェクト（文京かるた隊）
- ④ 「ようこそサカミチ in 文京 2023」（減災連携ステークホルダーミーティングのモデル化とサカミチ観光開発事業）（本郷いきぬき工房）

※ 展開力向上支援。第1クールで支援終了。

・2014年度支援プロジェクト 3件

- ①ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen）【2013年度からの継続支援】
- ②地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく Loco-working 拠点「文京版 cococi」立ち上げプロジェクト（cococi2000）（株式会社 Polaris）
- ③échelle プロジェクト（échelle）

・2013年度支援プロジェクト 3件

- ①ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen）
- ②文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ）
- ③地域ブランド「文人郷（ぶんじんきょう）」構築による地域連携事業（NPO法人街 ing 本郷）

なお、プロジェクト支援候補となった登録プロジェクトや、社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクトについては、アイデアをすでに事業として展開しているプロジェクトもありました。また、本年度は登録プロジェクトに対しても、メンターミーティングや相談会等を実施し、より活動が展開できるよう支援しました。

◇プロジェクト登録数

⇒5件（支援プロジェクトを除く）

（うち2件は、2014年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生）

◇社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト数

⇒13件

④ 担い手の事業によって、どれだけの区民がサービスの受け手となれたか

⇒地域活動のサービスの受け手については、プロジェクト支援団体やプロジェクト登録団体等が実施する事業などの参加者数等は、延べ■人（調査中）であり、今後の更なる展開についても期待できることから、区民サービスが充実しつつあると評価できます。

◇プロジェクト支援団体、プロジェクト登録団体、社会起業アクション・ラーニング講座受講生が実施した事業への参加者数・利用者数

⇒延べ ■人（調査中）

⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか

⇒実施プログラムへの参加者数は、延べ1,100人超と、昨年度の実績を上回る実績を上げ、地域活動に関心の高い層にアプローチができました。特に本年度については大学等を会場に区内の各地域で開催した結果、新しい層の参加も見られました。

また、実施プログラムのリピート率や、活動の状況より、単にプログラムに興味があるだけで

はなく、ある程度何かをやってみたい方、活動を一緒にする仲間が欲しい方などがリピートしていると考えられます。

さらに、時間的制約等の理由から講座や対話等への参加がしにくいと考えられる若年世代も参加しやすいように、例年どおり開催時間、テーマ設定、ゲストの工夫を行うことで、それらの世代から数多くの参加を得ることができました。

こうしたことから、地域活動に興味のある層が多く参加できているものの、今後より多くの区民の参加を得るには、さらにテーマ設定等を工夫していく必要があると考えます。

◇本プロジェクトの延べ参加者数

⇒延べ参加者数 **1,162人** (2014年度 延べ参加者数 **1,028人**)

◇リピート参加率・平均参加回数

⇒・2回以上実施プログラムに参加した方の割合 **22.9%**

・2回以上実施プログラムに参加した方の平均参加回数 **1.5回**

◇年齢構成

⇒実施プログラムの年齢別参加割合

20歳代以下 15.2%

30歳代 21.9%

40歳代 31.5%

(20歳代から40歳代が全体の68.5%を占めている)

◇参加者アンケート結果（再掲）

○社会起業入門講座（N=55）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **38.2%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **25.5%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **23.6%**
- ・「一緒に活動する仲間を見つけない」と回答した方 **36.4%**

○文京ミ・ラ・イ対話（N=145）

- ・「新しい活動を始めたい」と回答した方 **22.8%**
- ・「地域課題をもっと学びたい」と回答した方 **33.8%**
- ・「社会起業講座で解決策を学びたい」と回答した方 **11.0%**
- ・「一緒に活動する仲間を見つけない」と回答した方 **38.6%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座に興味がある」と回答した方 **52.3%** (N=46)

○文京社会起業フェスタ 2016 (N=49)

- ・「何か活動をしたい人」と回答した方 **30.6%**
- ・「既に活動している (区内外)」と回答した方 **46.9%**

⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか

⇒文京社会起業フェスタ 2016 や社会起業対話等を実施することで、担い手と地域の人が直接交流できる基盤づくりを行いました。

また、本年度も NPO 活動 PR フェアを開催し、NPO と区民、NPO 同士の新たなつながりづくりも支援しました。

さらに、昨年度立ち上げた交流会メンバーを中心として、交流や、お互いに支え合う活動が見られたことから、コミュニティができつつあると評価できます。

◇文京社会起業フェスタ 2016 の状況

⇒参加者数 **167 人**

- ・各ブースで参加者がプロジェクト発表者へ、質問時間が短いとの感想が出るほど熱心に質問及びディスカッションする様子が散見された。
- ・「いいね！カード」の提示により、参加者からのプロジェクトへの共感、応援が見える化した。

◇文京区 NPO 活動 PR フェアの状況

⇒参加者数 **420 人**

参加団体数 25 団体

- ・各ブースや団体主催講座において参加者が団体関係者と熱心に質問及びディスカッションする様子が散見された。
- ・フェアの運営を、実行委員会方式で実施。文京区の NPO 団体の交流の核となるメンバーが見える化された。
- ・事前の準備会でも NPO 同士で名刺交換するなど、交流する様子が散見された。

◇資格文興味・ら・いた岩などのゲスト、面た一など外部協力者数

⇒団体代表者や専門家等 **37 人**

◇文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会の状況

⇒メーリングリスト登録者数 **66 人**

(3/24 現在 本年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生 加入予定)

※年末に交流会が開催され、地域の担い手同士の交流・意見交換がなされた。

⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上、展開力向上に、どのように貢献できたか

⇒各々のプロジェクトの事業構築支援のプロセスにおいて、継続的に事業展開するに当たって

の課題整理や地域における関係づくり、プログラム開発を丁寧に行ったことにより、団体の成長が見られたことから、プロジェクトの継続力向上に貢献できたものの、今後は、地域で展開する意義・意味やメリット等について、丁寧にコミュニケーションを行い、共有していく必要があると考えます。

◇プロジェクト支援によって生み出されたこと

本年度、4件のプロジェクト支援を行った結果、各プロジェクトには、下記の成果が見られました。

①ブランクではなくギャップイヤー！～ライフイベントによる長期休暇がキャリア中断にならない文京区をつくる～（NPO 法人 ArrowArrow）

- ・新たな公共プロジェクト初の展開力向上として支援しました。既に他地域での実績、スキームはあったものの、文京区での展開に当たり、改めて対象者や、団体ならではの強みを認識し活動の軸を強固にしました。
- ・代表以外のスタッフのスキルアップのためにファシリテーター研修等を受講し、水平展開のための人材育成を行い、体制を整えました。
- ・座談会、イベントの開催などにより、区内の中小企業における困難な状況の中でも働き続けたい女性に対するニーズ把握を行い、区内での展開への準備を行いました。
- ・区内の中小企業へのヒアリングを通して、女性活躍推進に対するニーズを得、また、企業との関係づくりができました。
- ・団体紹介のリーフレットを作成し、団体の広報力向上を図りました。

<新たな公共プロジェクトが果たした役割>

- ・定例的なミーティングにおけるディスカッションにより、当該団体の強み、目指すところの明確化、言語化することをサポートしました。
- ・ワークショップ、イベント等の告知をサポートし、活動の認知、受益者へのリーチを支援しました。
- ・経済課との連携により、中小企業向けアンケート調査の効果的な候補先を紹介しました。
- ・アンケート調査、ヒアリング調査における企画・設計についてアドバイスをを行い、効果的にアンケート調査実施をサポートしました。
- ・リーフレット作成に当たり、アドバイスをを行い、効果的かつ持続的なツールとして活用できるようサポートしました。

②ぶんきょう・いんぐれす（ぶんきょう・いんぐれす）

- ・地域課題解決におけるイングレスの果たす役割について明確化することができました。
- ・地域の商店街等との関係づくりをしながら、地域のマルシェと連携した定期的なイングレス体験会等の実施により、イングレスの地域活性化への試行を進めました。
- ・イングレスプレイヤーのための文京区の情報やコンテンツをサイト上から発信しました。これは、住んでいる人も気づかない地域の魅力の紹介となり、街の魅力の情報発信としての機能も果たしました。
- ・イングレス体験会の実施により、普段は地域に目を向けない層と地域とをつなぐ役割を果たしました。

- ・体験会等の試行的取組が軌道に乗ったことより、インGRES以外にも新しい取組をしながら地域を活性化していく道筋をつくり、次への展開へとつなげました。
- ・また、インGRESを活用した地域活性化は、他地域でも求められており、ノウハウの水平展開の可能性も示唆することとなりました。

<新たな公共プロジェクトが果たした役割>

- ・団体の活動の方向性について、メンターミーティングの提供や定例ミーティングにおけるディスカッションで明確にすることを支援しました。
- ・インGRES等の新しい取組を地域に取り入れる意味について明確にすることをサポートしました。
- ・体験会開催の告知等において、Facebook 等にて支援しました。
- ・社会起業フェスタにおいて、活動紹介プレゼンテーション、体験ワークショップの機会を提供し、さらなる活動の認知度、共感者獲得に寄与しました。
- ・団体の今後の展開について、インGRES以外の可能性についてもディスカッションを行いサポートしました。

③まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつながるプロジェクト（文京かるた隊）

- ・プロジェクトの方向性、意味づけ、何の地域課題を解決するかについて、検討を重ねた結果、「地域には様々な活動があり、それらが見えていないことで、繋がりを感じられない」ことを解決することとして明確化することができました。
- ・地域の活動を紹介するかるたとして、その製作スキーム（取材方法、対象の選択、WEB 情報との連動）について確立することができました。また、試行的な取り組みにより、サンプルとしてのかるたを製作しました。
- ・かるたの意味づけ、位置づけが明確化されたことで、かるたを活用した展開イメージも明確化され、かるたを活用したワークショップや活用場面についても明確化することができました。
- ・かるたライター説明会の開催により、新しいメンバーの加入へと繋がり、プロジェクト推進の体制が整いました。

<新たな公共プロジェクトが果たした役割>

- ・定例ミーティングによるディスカッションやメンターミーティング等により、活動の軸となるプロジェクトの意味、方向性の明確化をサポートしました。
- ・定期的なミーティングや個別フォローを行うことで、ゴール設定やプロジェクトの進行管理を行い、プロジェクト展開をサポートしました。
- ・かるた製作スキーム開発において、読み札、絵札の意味、スペースの活用方法、WEB との連携についてアドバイスをしました。
- ・ワークショップや説明会の告知協力を Facebook 等で行い、広報支援を行いました。
- ・社会起業フェスタにおいて、活動紹介プレゼンテーション、体験ワークショップの機会を提供し、さらなる活動の認知度のアップをサポートしました。

④「ようこそサカミチ in 文京2023」 (減災連携ステークホルダーミーティングのモデル化とサカミチ観光開発事業) (本郷いきぬき工房)

- ・サカミチをキーワードに、どのようなプロジェクトを展開していくかについて、ディスカッションを重ね、プロジェクトの方向性、目指すゴール、活動の意味を明確にしました。
- ・サカミチをキーワードに、専門家、町会、地域の企業、行政など、様々なステークホルダーが集まる場を設定し、地域の防災などに関する課題の洗い出し、それを解決するためのプロジェクトの果たす役割について検討を行いました。文京区にある企業や施設における防災面の課題について、ステークホルダーをきっかけにつなげた地域の企業等と引き続き、共同しながら進めることとなりました。
- ・他事例等を参考に、サカミチをキーワードとしたユニバーサル街歩き、それをガイドする坂の駅の構想などを生み出し、実現へ向けての企画検討を行いました。また、実際に体験会や駅長育成講座などを試行的に行い、今後の展開への手ごたえを得ました。
- ・本取組と連携した東京大学の研究室との連携事業(街歩きにおける地図アプリの活用)において、国際学会でその取り組みが発表されることとなりました。

<新たな公共プロジェクトが果たした役割>

- ・定例ミーティングによるディスカッションやメンターミーティング等により、活動の軸となるプロジェクトの意味、方向性の明確化をサポートしました。
- ・事業の展開のポイント、ステークホルダーミーティング、講座、ワークショップ開発についてアドバイスをしました。
- ・定期的なミーティング等により、プロジェクトのゴール設定、進行管理などのマネジメントを行い、活動推進に寄与しました。
- ・体験ワークショップ等において、Facebook等での告知を行い、広報支援を行いました。
- ・社会起業フェスタにおいて、活動紹介プレゼンテーション、体験ワークショップの機会を提供し、さらなる活動の認知度のアップをサポートしました。体験ワークショップでは、サカミチの専門家や他地域で活動している人をつなぎ、更なる拡大へのチャンスを提供しました。

⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか

⇒昨年度に引き続き、特設サイトや、SNS等の多様な広報媒体の活用により、多様な層へリアルタイムでの広い情報提供を行うことができました。また、文京区NPO活動PRフェア出展団体の活動や社会起業フェスタにおける発表者や、各プログラム紹介や、各プログラムの開催後の報告記事などで、本プロジェクトに関わっている人や団体の顔が見える広報にも力を入れたことで、Facebookの「いいね」に代表される閲覧者の共感も伸び、実施プログラムの参加者も着実に増加しました。

また、昨年度に引き続き、取材や視察を受け入れる機会もあり、地域活動を始める方を新たに創出するスキームとして、教育機関や他の行政機関から注目されつつある状況です。

こうしたことから、広報戦略の取組には効果があったと評価できます。

◇メルマガ登録者数

⇒**802人** (3/24 現在) (参考 2015年 3/18 現在 640人)

◇Facebookの「いいね」数(共感、支持者の数)

⇒**856人** (3/24 現在) (参考 2015年 3/18 現在 637人)

◇Facebook投稿記事の最大リーチ数(記事を読んだ人の数)

⇒**3,829人** (3/24 現在) (参考 2015年 3/18 現在 1,316人)

◇メディア掲載

⇒以下、**計2回掲載**

- ・日本経済新聞(8/24)
- ・東商新聞(12/20)

◇CATVでの動画配信

⇒以下、**計4回配信**

- ・プロジェクト・ブラッシュアップ講座(5/25～)
- ・文京ミ・ラ・イへつなぐ シンポジウム&対話 文京ミ・ラ・イ対話(7/13～)
- ・文京区NPO活動PRフェア(10/5～)
- ・文京社会起業フェスタ2016(2/22～)

◇視察受入

⇒以下、**計6回 受入**

- ・10/16 総務省東京行政評価事務所(職員2名)
- ・10/23 豊田市(職員1名)
- ・10/29 東京大学産学連携本部(職員4名)
- ・11/6 東京市町村自治調査会調査部(研究員2名)、ニッセイ基礎研究所(3名)
- ・12/4 東京商工会議所取材(編集者・ライター2名)
- ・12/18 松山市視察(公明党市議会議員2名)

⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか

⇒本プロジェクトでは、昨年度に引き続き、全庁的な取組に注力し、文京ミ・ラ・イ対話への職員の参加、支援プロジェクトの事業構築への参加、協働推進に関する研修などを行いました。これらの事業を通じ、職員が区民や地域活動の担い手と直接関わる機会を持ち、また、研修では協働推進について新しい気づきを得られている意見が数多く見られることから、職員の意識改革に向けて、徐々に効果を上げつつあると評価できます。

◇参加職員数

⇒対話の場等のイベントへの参加職員数 6人

「協働」に関する研修受講者数 延べ 305人

※その他、支援プロジェクト選考及びキックオフミーティング等において適宜関係部署の職員参加あり。また、組織横断的に協働を推進する「協働推進委員会」を設置しています。

◇職員の意識の変化（研修受講者アンケートより）

1) 「新たな公共の担い手との協働推進研修」（全職員対象 受講者 45人）

<受講者アンケート>

- ・地域課題と地域資源を認識し、新たな事業等を生み出し育んでいくためには地域力が重要であり、課題解決のプロセスを地域で共有することで実現につなげていくことができるが、今回の研修は、そのために必要な素養や実践例を体験できる良い機会となった。

2) 新任研修「区の協働」（新任職員対象 受講者 延べ133人）

<受講者アンケート>

- ・地域課題を解決していくためには、区民や地域活動団体などと協働していく必要があると感じた。
- ・担当している事業それぞれの事業目的をまず整理し、協働を行った場合にどのようなメリットが考えられるか、日々の業務と結びつけて、協働の可能性についての意識を心がけようと思う。

3) NPO等地域団体派遣研修（入区3年目の職員対象 受講者 65人）

<受講者アンケート>

- ・区とNPOの協働により、区だけでは実現できないことが実現できるようになることを学んだ。今後仕事をやっていく中で、ひとつの選択肢として「協働」を考えていきたい。
- ・区で実施している福祉サービスのほかに、民間企業やNPO等の様々な団体が参入して、選択肢が増え、ご家族のニーズに合わせた支援が行われることは、とても望ましいことだと思います。

4) 協働研修（基礎編）（入区5年目の職員対象 受講者 47人）

<受講者アンケート>

- ・グループワークにおける協働事業の考察を通じて、各種事業における協働の可能性や課題等を学べた。
- ・行政サービスに対する住民満足度が高くても「サイレントマイノリティ」である声なき少数者の住民意見があること、公務員では見出せない住民の視点があること等、広い視野をもって協働を進めていくことが大切であることを学んだ。

5) 協働研修（応用編）（係長職昇任3年目の職員対象 受講者 15人）

<受講者アンケート>

- ・区民等との協働で事業を実施する場合は、課題やニーズを十分把握し、相手の立場に立って進めることを心がけるとともに、全庁的にアンテナを張り巡らせ、柔軟な発想で何か新しいことを始めることができないか常に念頭に置きながら、日々の仕事を進めていきたい。
- ・職員の持つ課題意識・発想と民間の社会起業家が協力していけば、必要とされる新しい事業を行うことができると感じた。

⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか

⇒担い手創出のための仕掛けとして、担い手の活動ステージに応じた各プログラムを企画し、それらを体系化して運営しました。昨年度の社会起業アクション・ラーニング講座の受講生から登録プロジェクトが生まれるなど、本プロジェクトの開始から3年で、実際に地域活動の担い手を生み育むスキームとして実績を上げつつあります。

しかしながら、担い手のストックはある程度でき始めていますが、活動をしていない方の活動を促進させるような相互支援できる取組を検討していく必要があります。

◇文京ミ・ラ・イ対話

- ・今年、区民の関心が高いと思われる社会課題をテーマに、さらに大学等を会場に各地で開催し、新しい層の参加を促しました。それぞれのテーマが区民の関心の高いテーマであったことより、区民も参加しやすく、同じ課題に興味のある区民同士の出会いの場としても機能しました。
- ・また、それぞれの対話で、自分事として課題を考えてもらい、アクションにつなげるために、参加者全員からアクション宣言を行うようにしました。これにより、地域活動の主体は、参加者一人ひとりであるとの意識づけを行いました。

◇社会起業アクション・ラーニング講座

- ・受講生は、18名で、それぞれの興味分野は多様でユニークなプロジェクトが生まれました。7回の受講生同士でディスカッションする時間も多く設けたこともあり、受講生同士の交流も生まれ、お互い協力して実践していく土壌が醸成されました。実際に受講生同士のコラボレーションによる活動も生まれました。また、講座に加え、個別相談会を2回実施することで、各々の事業のアイデアやプランのステップアップができました。
- ・受講生は、講座だけでなく、メンターミーティングや文京ミ・ラ・イ対話、文京社会起業フェスタ 2016 へ参加することを通じて、地域の人や専門家とつながる機会ができたことで、事業づくりに向けた新しい気づきを得て、地域活動の担い手としての成長がうかがえました。

◇文京社会起業フェスタ 2016

- ・支援プロジェクト、登録プロジェクト、社会起業アクション・ラーニング講座受講生が一堂に会し、事業プランの発表と参加者との交流の組み合わせでイベントを開催しました。発表コーナーでは既に活動をしている人や何か地域で活動したい人、プロジェクトを手伝いたい人が積極的に発表者に質問やディスカッションをする場面が散見されました。また、支援プロジェクトが実施した体験ワークショップでは、支援プロジェクトが実際に取組むプランについて体験できるように工夫したことより、より共感が得られる様子が見られました。例年、社会起業フェスタでの出会いによりサポーターを得て事業が拡大したプロジェクトもあり、このイベントを通じて、また新しいプロジェクトが生まれることが期待されます。

◇プロジェクト登録

- ・プロジェクト登録は、支援候補のプロジェクトとなることから、事業の更なる効率的な成長を図るため「プロジェクト・ブラッシュアップ講座」を開催し、登録前に、登録に興味のある方向けのプロジェクトのブラッシュアップを支援しました。
- ・本年度もプロジェクト登録されたプロジェクトは、特設サイトでのPRや、文京区 NPO 活動 PR フェア、文京社会起業フェスタ 2016 での発表機会の提供等を通じて地域の協力者を得るきっかけづくりを支援しました。また、さらに、本年度は新たに、メンターミーティングや相談会なども実施し、登録プロジェクトへのステップアップを強化しました。

◇プロジェクト支援

- ・プロジェクト支援は、4か月を1クールとした期間を設定し、各プロジェクトの状況に応じた定期的なミーティング等によりきめ細かな支援を行ったことで、担い手としての団体の成長がうかがえました。
- ・また、プロジェクト登録前に実施した「プロジェクト・ブラッシュアップ講座」によりプロジェクトのブラッシュアップを図ったことで、ある程度事業プランがレベルアップした状況でプロジェクト支援をスタートすることができました。
- ・本年度、はじめて展開力向上支援に該当する団体もあり、他地域で既にある程度の活動実績のある団体の文京区での地域展開について支援しました。このスキームについては、今後の検討課題となりましたが、改めてこのスキームについて検討する機会を得ました。

IV. 今後のプロジェクト実施に向けて

本年度の実施結果と成果を踏まえ、次年度以降に向けた課題と改善案をまとめます。

【課題と改善案】

○重点テーマの設定と文京ミ・ラ・イ対話

本年度は、重点テーマとして、例年のように行政の現場から出された「行政だけでは対応が難しい地域課題」をベースに設定するのではなく、地域で活動をしている区民に関心のあるテーマとし、対話においてもこれを採用しました。また、会場については、大学や文京区青少年プラザ (b-lab) と連携し、区内の各地域で開催しました。これにより、これまで遠くて参加できなかった方などが参加するきっかけとなり、新たな参加者を得ることができました。

このような区民に関心のある、また、全国的な社会課題をテーマにすることは、区民サイドにとってもメリットが大きく、担い手発掘といった点において評価できます。しかし、区との協働といった点においてはまだまだ検討の余地があります。区職員の参加を得て区の取組紹介等もなされましたが、区が考える地域の課題と区民の関心のあるテーマにおいては、必ずしも一致するものではないため、協働といった観点からは、今後はさらにテーマ設定の工夫や検討が必要であると考えます。

○社会起業入門講座

本年度は、NPO 法人グリーンズ代表の鈴木氏やファンドレイジング・ラボ代表の徳永氏などを招き、ソーシャルイノベーションやソーシャルな活動における全国的なトレンドや取組について講義をしていただきました。多くの区民の参加が見られ、好評な講座となりました。こうした全国的な取組は、区民の関心のあるところであり、今回のように区民にとって身近な文京区内で実施することで、今までこうした話を聞いてこなかった方や、こうした取組に触れてこなかった方々に対しても、参加するきっかけ、関心を持つきっかけとなりました。全国的な規模で活動している方々の話は、NPO や地域で活動する人にとってヒントとなることが多いので、地域で活動している方の話も重要である一方、このような機会を今後も提供していくことが必要であるといえます。

○社会起業アクション・ラーニング講座

本年度の参加者は、18人と定員を下回りましたが、多様なテーマを持つ熱心な方ばかりであり、新しい担い手として今後活躍していくことが期待されます。また、既に区内で、教室などの活動を始めている方もいらっしゃいました。地域で事業を実施し始めてみて、地域の接点が必要と感じ、それを求めて参加する方が散見されました。彼らは、講座を通じて、地域との関係性づくりや、協働に対する理解を深めていきました。これを逆に考えると、既に地域で事業を実施し始めている方々も地域課題解決の担い手、協働事業の対象者となり得る可能性が高いといえ、区経済課で実施している創業支援セミナーやチャレンジショップ支援事業などと連携し、普通に起業した方々もソーシャル化して担い手となることが期待されます。これらは、過去の新たな公共プロジェクトの取組の中でも取組んでいない分野で

あるため、動き始めて 1 年くらいの地域密着型の事業者に対してアプローチし、担い手への裾野を広げていく必要があると考えます。

○プロジェクト支援等

今年度は、初めて展開力向上支援として、NPO 法人 ArrowArrou を支援プロジェクトに採択しました。事前に文京区としての基本前提フレームなどについては伝えていたものの、支援が始まると、先方の期待していることと、事務局サイドが思っていることがすれ違ってしまい、第 1 クールでの支援終了となりました。今後は、新しい公共プロジェクトのスキームで、地域の中に根付いて事業を展開していく意義や難しさを、より丁寧に共有できるような関係づくりが必要と痛感しています。本年度もプロジェクト登録説明会等において、制度の説明はしてきましたが、スキームの説明というよりは、むしろ、地域で展開する意義・意味・メリット等について、丁寧にコミュニケーションをしていく必要があると思われまます。

なお、他の支援プロジェクトについては、自立的に事業を展開しており、確実な成長が見られています。しかし、数値目標を設定し、それを達成するといったような支援までは踏み込むことができませんでした。初期段階のため、数値目標などの設定は難しいともいえますが、今後は、数値も含めて、目標管理をどのようにしていくのかについて検討が必要であるといえます。

○NPO 活動 PR フェア

本年度も実施した NPO 活動 PR フェアは、来場者については昨年同様でしたが、会場が 3 つで、さらにテーマごとの会場割りをしたため、会場に人が少ない印象となってしまいました。また、参加者にとっても全部の団体を容易に把握できなかつたということもあります。会場配置については、導線の確保も含め、今後も検討の余地があります。また、個別の会場での発表に加え、全団体が一堂に、参加者全体の前で簡易なプレゼンテーションをし、団体や活動について知ってもらえるような場もより効果的であると考えられます。来年度以降は、これらを踏まえ、会場配置やプログラムなどを工夫し対応していきたいと考えます。

なお、本年度は、参加団体から有志を募り、企画運営やテーマ設定等について検討する実行委員会形式を採用しました。これにより、NPO 団体の意向がより反映されたプログラムとなり、かつ、文京区の NPO 団体の核となるような団体を見出すことができました。

○社会起業フェスタ

例年の各ブースにおける発表及び交流は、発表時間帯等における聴衆人数のばらつきといった問題がありました。本年度は、それを解消するため、集中的なプレゼンテーションタイムとその後の個別の交流時間ということでプログラムの工夫をしました。どのプレゼンテーションも聴取者が多く、また、参加者においても多くのプレゼンテーションを聞くことができ好評でした。また、支援プロジェクトについては、体験ワークショップの実施を新たにプログラムへ組み入れました。こちらも、体験を通じてより具体的にプロジェクトに触れることができるプログラムとなり好評でした。

今回の各一ナーへの参加者の集まり具合を見ると「地域づくり」「大人の学び」といったテーマにやや集中するといった現象が見られました。これらのテーマに興味のある方が多い、または当事者意識を

持ちやすいテーマであるとは思われますが、今後は、テーマ設定等についても工夫が必要と考えます。

○担い手の育成について

新たな公共プロジェクトの3年目となる本年度においては、過去の社会起業アクション・ラーニング講座の修了生から支援プロジェクトが採択されました。また、受講生や対話に参加して地域活動に興味のある方が、実際に、地域の拠点をつくる、地域メディアをつくる、サービスを提供するなどといった動きが見られました。こうしたことより、新たな公共の担い手のストックがある程度でき始めているといえます。それにより、活動をしたい方たちが見える化され、つながりやすくなり、新しい活動も生まれており、相互支援ができるコミュニティとしての成果が上がってきています。

ただ、現状、活動をしていない方には、それが見える化されているとはいえない状況であります。今後は、現在の交流会活動をより強化し、相互に学び合う会を立ち上げ、地域のプレイヤーの見える化を行い、さらに特設サイトでのプレイヤーの紹介など情報発信に積極的に取り組んでいきます。